

令和4年度 第2回社会教育委員会議事録

【日時】 令和4年（2022年）10月20日（木）10：00～11：50

【場所】 市役所3号館3階 301会議室

【出席委員】

議長	梨本 加菜	委員	臼井 護
委員	加藤 春樹	委員	小林 純子
委員	林 但	委員	松本 敬之介
委員	山岸 雅人	委員	渡辺 孝夫

【欠席委員】

副議長	櫻井 聡	委員	浦野 千鶴
委員	塩野谷純香	委員	志村 直愛
委員	八矢 信宏	委員	濱田 恵里
議長	蛭田 道春		

【事務局出席者】

生涯学習課長	柿原 美奈	同課係長	島内 さおり
同課主任	遠藤 雅弘	同課アシスタント	杉山 一美
中央図書館長	山口 正樹	児童図書館長	藤原 敦子

1. 開会

梨本議長が会議の開催を宣言し、会議を開始した。

2. 生涯学習課長挨拶

柿原生涯学習課長から、挨拶を行った。

定足数について

委員 15 名のうち 8 名が出席し、出席者がその半数を超えるため、社会教育委員会議規則第 4 条第 1 項の規定に基づき、事務局が会議成立を報告した。

その他

傍聴人の確認（傍聴者 0 名）、説明員の紹介、配布資料の確認を行った。

3. 報告 第3次横須賀市子ども読書活動推進計画進行状況について

中央図書館山口館長、児童図書館藤原館長が報告を行った。

<質疑応答>

議長 ただいまの説明について、何か質問等があるか。

委員 資料1の4ページ1-(2)①の地域文庫4団体とあるが、地域について伺いたい。

山口館長 昨年度、地域文庫は6団体あった。その内、2団体は昨年度貸し出し実績がなかったため、実績のあった団体は4団体としている。岩戸文庫は岩戸、たんぼぼ文庫は鴨居、ワンワン文庫はハイランド、キッズポケットは追浜で行っている。ほかに秋谷、大矢部にある。

委員 34ページの指標の4で中学校が5校/23校とあるが、呼びかけなど何か行っているのか。

山口館長 学校からリクエストがきたら、市立図書館から学校へ宅配便を利用して配送し、宅配便で返却ができるようにしている。そのことにより、先生が市立図書館に取りに行かなくてよくなり、簡単に学校特別貸し出しを活用して授業に使えるようにしている。中学校の利用が増えるよう、PRし、使いやすい環境作りを行っていきたい。

委員 27ページ2-(3)③、28ページ2-(3)④が平成30年度から令和3年度まで未実施とあるが、代替りの授業や講座は行ったのか。

山口館長 高校生対象の事業は行っていない。

委員 34ページの指標の1から3の実績について、具体的な活動やプロモーションは行ったのか。3は増えているように見えるが、特定の子が増えているだけではないのか。

山口館長 毎年11月の1か月分の調査を12月に行っている。本を読む子と読まない子の格差が激しい。第4次計画にも記載したが、本に関心のない子へ向けて、本と触れ合う場を提供できるよう力をいれていく。数値の減少は新型コロナウイルス感染症だけが原因ではない。新型コロナウイルス感染症により、かえって家で本を読むことが増えている傾向もある。これらも踏まえて、今後取り組んでいきたい。

委員 図書館から学校への配送により、環境が整ってきている。学校からのリクエストだと、学校と図書館の連携が必要だと思うが、学校と図書館の壁を乗り越える手立てはないのか。

藤原館長 現在、小学校と小学校司書との連携のために教育指導課とタッグを組んで、毎月の研修会や連絡会に数回参加している。学校は市立図書館にこない子に向けてアプローチできる場として取り組んでいる。

委員 総合学習や出前授業で学校へ行くことがあるが、明確に読書の時間を設けている学校、学習やカリキュラムの消化を重視する学校など、校長先生の取り組む姿勢により、かなり学校毎に異なっているので、うまく学校と連携を取ってほしい。

議長 学校司書との連絡会に参加するなど、積極的に取り組まれているようだが、学校によって図書館の開館状況等も異なるので、積極的な取り組みをお願いしたい。

山口館長 実態調査は毎年、小中学生を対象に行っている。今年度は1人1台端末となったので、方法を変えてクロームブックを使って行う予定である。電子書籍についての項目も設けたため、来年度報告をする。本日、読書週間のチラシを配布した。展示を中心で行う。数年前まで「本

の福袋」という取り組みを行っていたが、本が返却されないことがあったため、今年度は「レンタルセット」と名称を変更した。ぜひお時間があれば足をお運びいただきたい。

委員 津久井浜団地で「子ども図書館」という取り組みが行われていると最近耳にしたが、図書館との関わりがあるのか、もし関わりがあるのなら図書について連携はしているのか。

山口館長 個人で行っているため、連携はしていない。実態も掴めていない。現在行っている地域文庫は高齢で次々と閉じているので、活用できる部分があるか考えていく。

(説明員退出)

4. 議事 令和4年度社会教育委員会議の審議テーマについて

遠藤主任から、審議テーマ案を「幅広く参加していただける市民のための市民大学講座のあり方」として、①市民大学の内容について、②講座の提供の仕方（形態や時間）、③市民大学情報の周知・広報の視点からご意見をいただきたい旨提案を行った。

議長 事務局から提案のあった審議テーマと資料について、ご意見はあるか。

委員 講座の内容はどの様に決めているのか。その際市民からの要望は加味されているのか。市民の学習活動を支援し、学習を継続するための取り組みで、平成28年度から導入したといわれるまなびポイント制度、コース制、市民大学手帳の交付などの現状はどのようになっているのか。

遠藤主任 講座内容については、生涯学習財団職員が企画会議を行い、タイムリーなもの、社会的な課題、受講者アンケートで市民の要望が多かったものも加味して企画している。

また、まなびポイント制度は、講座出席1回につき1ポイントたまり、受講数によって称号や、定員に空きのある講座を無料で受講できる聴講券を進呈している。

コース制は、講師から教わるだけでなく、学んだことをレポートや掲示物にまとめ、学習成果を発表する研究コース、それ以外の一般コースの2つに分かれている。一般コースが講座の大半を占め、研究コースは年間数講座を実施している。

市民大学手帳は、受講者の申し出に応じて1人1冊お渡しし、講座のスケジュール、感想や気づき、ポイント制度に関する受講履歴などを記録して活用いただいている。

委員 市民大学受講について受益者負担の考えから有料になったが、以前に比べて受講率に変化はあるか。

遠藤主任 確認をして、後日回答させていただく。

委員 無料の時代に当日キャンセルする人が多く出たため受講料有料化を始めたと記憶している。ポイント制度などでリピーターへの対策は十分できているので、これまで受講したことのない人への対策をどうするか。地域支援部を通して町内会へ広報するなど考えられる。

委員 テーマについては賛成である。どのターゲットへのアプローチが必要かなど、プロジェクトチームを作って検討をすると効果的だと思う。

- 委員 高齢者は健康、生きがい、歴史、地理に興味がある。ターゲットを50代以下にするには、ターゲットが興味のあるテーマにしたほうがよい。テーマをまんべんなくとってしまうと、散漫になってしまう。
- 委員 会場を生涯学習センターだけでなく、自治会や町内会に協力していただき、地域で開催できれば、家から近いので参加したいという人もいると思う。地域で根付いて、その後、生涯学習センターへという流れも生まれるのではないだろうか。
- 委員 私たちの団体は、1年に4回健康講座を開催している。3年前は総合福祉会館で開催していたが、参加者の交通の確保が難しいなどについて議論を行った結果、南・北・西・中央に会場を分散して地域主体での開催に変更した。その結果、参加者が微増したという経験がある。
- 委員 自分は審議テーマ案のターゲットに当てはまる年代。市民大学には、子どもがいないときは参加していた。就業者や就学者は、回数が多すぎると受講できないこともある。ターゲット世代がよく目にする「すかりぶ」や図書館のホームページにバナーを置くとよいのではないか。eスポーツや金融リテラシーの講座など、ターゲット世代が興味ある内容を組み込むことが必要。
- 議長 「すかりぶ」などのターゲットに届く広報は大切、回数が多いと就業者は受講し難いことも考えられるので、柔軟性を持った形になるとよい。
- 委員 50歳代以下というターゲット世代は社会的にも忙しい世代だと思う。小学校高学年・中学生の親の世代だと思う。丁度社会教育委員にはPTA会長もいるので、PTA会員の中での意見を聞いてもらったり、小委員会で検討、研究をしていくとよいと思う。
- 委員 ジャンル別の層別だけでなく、年齢、学び方などの層別があれば参考になると思う。開催場所は地域で開催したほうがよいと思う。
- 柿原課長 生涯学習財団と相談をしていく。
- 議長 小委員会を立ち上げるということではどうか。
- 柿原課長 議事録の送付と合わせて、本日の欠席者に打診する。
- 議長 今期の審議テーマについて、ご承認いただけるか。

(異議なし、承認)

9. その他連絡事項

遠藤主任から事務連絡を行った。

最後に、議長が閉会を宣言し、会議は終了した。

(閉会)

以上のとおり相違ありません。

議事録署名年月日 令和4年 月 日

議事録署名人